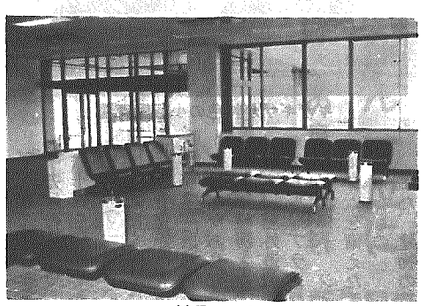
新庁舎


▲村民ホール

■庁舎の概要

敷地面積 6,048㎡

建物の構造と面積

庁舎棟 鉄筋コンクリート造り三階建て 2,958㎡

車庫棟 鉄筋コンクリート造り一部鉄骨造り一部二階建て 753㎡

■事業費の概要

設計・監理費	22,000千円
建築工事	628,306千円
電気工事	
空気調和設備工事	
外構工事	
備品費	30,000千円
土地買収造成費	68,561千円
計	748,867千円

汽車には ロマンがある

乗物でバスといえば、喜劇的名詞に例えられる場合が多い。これを代表するのが「バスガイドの歌」のように、決して涙の出るようなところはでてこない。

これに反して汽車となると悲劇的名詞の部分が極めて多く、例えば「赤いランプの終列車」のように。

現在の駅ではブザーで情緒がなくなったが、以前は汽車の発車は必ずベルであった。ベルが鳴りやむと汽笛がポッと発車の合図、ゆっくり汽車は動く、しばらくは人がついてゆける速さであるが、だんだんと小走りになりながら手を振りホームの外れまで走って、あとは激しく手を振りながら汽車の窓を追い、列車の赤い尾灯が見えなくなるまで見送る風景には、実にみごとな道具だてが揃ったものだと思う。

そんな情景を連想しながら乗物の中で強い印象が残るのは、バスよりも汽車が強い。汽車にはロマンがあるような感がしてならない。しかし現在の新幹線では、そんな悠長なことはいっていられません。

今年の三月十四日には上越新幹線が待望の上野まで乗り入れができ、全線が開通したが、停車駅の少ない「あさひ」は二時間弱で、新潟から上野に到着する時代になった。

朝一番で新潟から乗車して最終列車に帰るとしたら、十三時間も在京できることとなり大抵の用事ならこの時間で十分用立てられるので、商用の方にはとても魅力的な交通機関となったものです。

上野乗り入れ一か月の乗車数は、前年同期より三七%増だそうで、上野直結でより首都圏との交流が活発になった事を示している。

この中で、各駅に停車する「とき」の平均乗車率は七二%に対し、停車駅の少ない「あさひ」では八七%で、より速い列車の利用に人気が集中している事が伺える。

世をあげて、より早くより快適にと、施設が高度化されて、急行「佐渡」で六～七時間、特急「とき」でも四時間を要した事から考えると、今昔の感がしてならない。

短時間で新潟と首都圏を結ぶ新幹線は便利で、地域の産業振興や地域おこしに、大きな原動力になることは間違いありません。

しかし、長岡を過ぎると山脈を越えるまでは、トンネルばかりで、車窓からの農村風景や山並みの景色が眺められず、また名物の駅弁がゆっくりと食べられなく、実に残念でたまりません。

経済の発展も必要であるがゆっくりと自然の風景を眺めながら楽しむ汽車旅も、また格別ではないでしょうか。

（中川）

で飛躍へのスタート

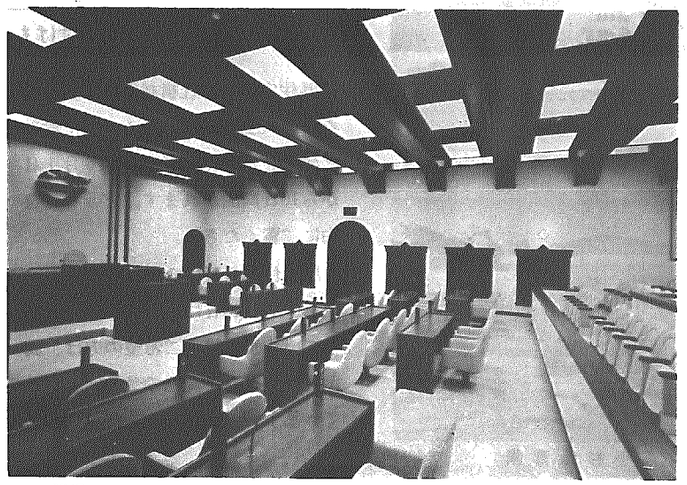
▲窓口 事務室はワンフロア方式

九、〇〇〇人村民の豊かな暮らし、住みよい村づくりを進めていくための窓口となる役場庁舎が完成しました。

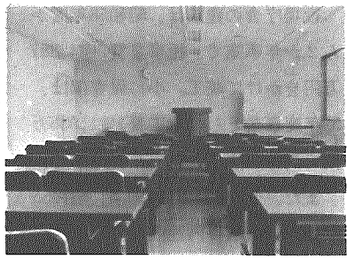
明るいブラウンカラーの新庁舎は、開放的な広い空間、機能的な設備と業務配置がされ、村民の多様化、高度化している行政需要に対して、十分に応えられる施設になっています。

執行部、職員をはじめ、議会では、庁舎の完成を契機に更に、村の飛躍的発展のスタートとしています。

新庁舎の概要は、後日全戸にパンフレットが配布されますのでご覧ください。


▲議場
右手が傍聴席、中央部が議員席、左手が執行部席

▶身障者トイレ


▶中会議室

新庁舎公開 議場にはたまげた 広くて感じがいい

村民の声

にぎわいをみせた新庁舎公開

新庁舎が四月十三、十四日の両日村民に公開されました。

二日間とも天候に恵まれ、家族連れや近所同志で見物にくる人が多く、新庁舎は終日にぎわいを見せ、延べ五三〇人余。

見物を終えた人たちの多くは、異句同音に「立派な役場だ。広くて感じがいい。特に議場はたいしたものだ」と感想を述べていました。

村長のイスに座って気分爽快と語る村民

てみますと、「今までの役場は暗いイメージで来づらかったが、今度は明るくてわかりやすく、気軽に来れるようだ。」「今度議会傍聴にこなければ」「立派すぎて、我々の役場かとたまげた。維持管理が大変だろう。」「あまり広くてショウシ（はずかしい）だ前より入りずらい。」「農協や土地改良、商工会もそばにあるから場所として一番よい。」「せっかくの村民公開なのにエレベーターの使用規制や立派な議場の議員席に座わることができず残念だった。」などの声が聞かれました。

また、「国会並みの議場で立派すぎる。審議内容も立派にし、村の発展に真険に取り組んでほしい。」「広い事務室といたれりつくせりの施設、職員は村民のために一生懸命働いてほしい。」などの注文も多くありました。

このほかの村民の声を拾っ

庁舎新旧交替 さようなら よろしく

四月八日、新庁舎で業務の開始に先き立ち、午前八時三十分から庁舎正面玄関前で、村三役、村会議員、全職員が出席して開庁式が行われ、浅見村長、田村議長、宮沢農委会長、田中教委委員長が紅白のテープにハサミが入れられ開庁しました。

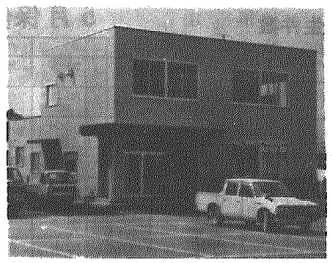
引き続いて旧庁舎で閉庁式が行われました。

浅見村長が正面玄関の戸に旋錠とピロティーの柱に掲げてある「横越村役場」と書かれた木製の庁札を取りはずし、五十余年間風雪に耐えながら行政執行の館として、村発展に数々の歴史を築きあげてきた功績をたたえ、別れを告げました。

土改横越出張所の新事務所も完成

亀田郷土地改良区横越出張所も三月末に完成し、四月八日から新事務所で業務が開始されました。

同出張所は、役場新庁舎前の敷地四三〇平方㍍に、鉄骨造り二階建て延べ面積二七五平方㍍。



一階は事務室と会議室、二階は、広さ六八平方㍍の大会議室と和室があります。

冷暖房も完備され、総工費は三、七〇〇万円。